HIGO プログラム基礎コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目：　社会文化科学総論（必修 2 単位）　　**時間割コード：（医）24390（薬）07200**

科目主任教員：高橋隆雄　（生命倫理学　　TEL: 342-2373）ttaka@kumamoto-u.ac.jp
分担教員：　上野眞也　（公共政策学　　TEL: 342-2044）ueno@gpo.kumamoto-u.ac.jp
　　安川文朗　（組織経済学　　TEL: 045-787-2105）fyasu@yokohama-cu.ac.jp

【授業の目標】

この講義では、倫理学、政治およびビジネスに関連した社会文化科学の基礎的かつ代表的な理論を学習する。

講義は次の 3 部構成：1)自律、正義および人間の尊厳といった、生命倫理学の基本原則を議論し、どのように生命科学や医学の倫理的問題を解決すべきかディスカッションする生命倫理学

2) 権力、集団行動、政治プロセス問題をカバーする政治学

3)組織マネジメントに関する基礎的概念と、組織運営のドライビングスキルとしてのインセンティブメカニズムの基礎を理解し、自ら組織の在り方や組織運営のリーダーシップのあり方を考えられるようにする組織マネジメント

この講義は、メディカルセッティングや組織の中で、どのように優れたリーダーシップを発揮できるかを自らが問う機会を提供する。

【授業の内容】

1. 生命倫理
自律、無危害、善行、正義および人間の尊厳といった、生命倫理の基本原則を扱う。基本原理の内容にとどまらず、安楽死、中絶、臓器移植、人間のクローン化およびヘルスケア資源の配分といった、具体的な生命倫理学の問題への適用も学習する。

2. 政治学
政治学の基本的知識を導入する。政治は公共問題の解決のために設計された応用社会科学分野である。そこには権力、イデオロギー、集団行動、政治体制、政治プロセスといった、政治を理解するためのキーとなる概念がいくつか存在する。この講義では、さまざまな政治的議論の検証における、批判的思考法を身に着ける。

3. 組織マネジメント
授業は、組織の構造と特性、組織運営の効率性、組織における資源配置の３点を中心に、営利・非営利組織が社会においてどのような機能を発揮しているのか、組織をうまく運営するとはどういうことか、そのために必要な条件は何か、について講義する。

【キーワード】

生命倫理学、自律、正義、生命倫理的ジレンマ、権力、体制、集団行動、組織論、インセンティブ、資源配分の効率性、マネジメント

【授業の形態】

授業は、各時間、スライド等を持ちた基礎概念の説明と、その概念を用いた簡単な演習とをセットでおこなう。また最後に、質疑応答の時間を設け、理解を深められうように配慮する。
やむを得ない理由で出席できない者については、補講やビデオ講義も考慮する。

【テキスト】　特に指定はしない。講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】　T.L.Beauchamp & J.F.Childress, *Priciples of Biomedical Ethics*, Oxford U.P. 2001
John Keane, “The Life and Death of Democracy”, W. W. Norton & Company, N.Y., 2009
効率性やインセンティブについてのややアドバンスな参考書として
D.Campbell “Incentive” Cambridge University Press2006 を挙げておく。

【オフィスアワー】

講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはＥメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。

【評価の基準と方法】

講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、
「授業の目標」に掲げた事項についての理解度を確認して評価する。

【事前学習】広範囲の文献を読んでおくこと。

【事後学習】講義中の配付資料やノートをよく復習し、レポート提出に備えること。

【講義の日時と内容】　別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時（金曜・３限）	講師	講義内容
１.	5/8	安川文朗	組織の構造
２.	5/15	〃	組織における効率性の概念
３.	5/22	〃	効率性と資源配分
４.	5/29	〃	インセンティブ・メカニズム
５.	6/5	高橋隆雄	生命倫理の基本原理
６.	6/12	〃	〃
７.	6/19	〃	生命倫理問題への応用
８.	6/26	〃	〃
９.	7/3	上野眞也	権力
１０.	7/10	〃	イデオロギー
１１.	7/17	〃	集団行動
１２.	7/24	〃	政治過程
１３−１５.	８月中	安川・高橋・上野	社会文化科学のレポート作成法

HIGO プログラム 4 年コース
授業科目： HIGO 行政セミナー（必修 1 単位）　　**時間割コード：(医)24410（薬）09310**

科目主任教員： 入江　徹美（薬剤情報分析学分野　　TEL: 371-4552）tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp
副 主 任 教 員 ： 加藤　貴彦（公衆衛生・医療科学分野 TEL: 373- 5112）　katoht@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分　担　教　員： HIGO プログラム担当教員

【授業の目標】
　健康生命科学分野において、本質を俯瞰できる専門的知識と国際的視野をもって、地域や日本・国際社会（グローカル社会）が抱える人類的課題を解決できる、世界と日本・地域を結ぶ産学官を牽引できるリーダーが必要とされている。その資質を涵養するためには、医学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等の幅広い知識を修得する必要がある。HIGO 行政セミナーでは、個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学上の課題について、その現状、解決すべき課題、将来の展望などに関するセミナーを聴講し、通常の大学院教育部の講義では取り扱うことのない最新の知識を修得するとともに、グローカルな視座から討議する。

【授業の内容】
　熊本県庁、熊本市役所、中央官庁などの行政機関から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、医薬政策、福祉、環境、公衆衛生、健康危機管理、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。なお、英語による講演を基本とするが、日本語で実施される場合は、英語通訳等の措置を行う。

【キーワード】
医療、福祉、環境、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理

【授業の形態】
質疑応答を重視したセミナー形式で、Power point, OHP 等を活用する。セミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。

【テキスト】
特に指定はしない。

【参考書】
特に指定しない。

【評価方法】
８回のセミナーに出席し、２回のレポート（e-portfolio）提出を義務づける。その内容にに基づき、当該講演内容の理解度を評価する。

【オフィスアワー】
　セミナーの内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに e-メールで問い合わせること。
また、オフィスアワーに研究室を訪問していただければ対応します。

【事前学習】
　セミナーを担当する行政機関等の情報について、そのホームページ等を利用して事前に予習しておくこと。

【事後学習】
　セミナーで学んだ内容を記したノートや配布資料をよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。e ラーニングが可能なものについては、そのコンテンツを復習すること。

【授業の日時】
　１～４年次にセミナーを聴講する。曜日・時間は特に指定しない。スケジュールは決まり次第、HIGO プログラムホームページに掲載する。随時、日程のチェックを行って下さい。
授業には、特別な理由が無い限り出席すること。

HIGO プログラム基礎コース
授業科目： HIGO 企業セミナーⅠ（必修 2 単位）　　時間割コード：(医)11080　(薬) 07310

科目主任教員： 有馬　英俊（製剤設計学分野　　TEL: 371-4160）arimah@gpo.kumamoto-u.ac.jp
副主任教員： 尾池　雄一（分子遺伝学分野　　TEL: 373-5140）oike@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分 担 教 員： HIGO プログラム担当教員

【授業の目標】
健康生命科学分野において、本質を俯瞰できる専門的知識と国際的視野をもって、地域や日本・国際社会（グローカル社会）が抱える人類的課題を解決できる、世界と日本・地域を結ぶ産学官を牽引できるリーダーの育成が望まれている。HIGO 企業セミナーⅠでは、企業からの視点を獲得し、地域社会のニーズを強く意識して社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を涵養することを目的に、講師を熊本県・熊本市の企業に加えて、国内の大手企業の経営者・研究者・開発者等を非常勤講師として招聘し、健康生命科学の社会への還元のあり方等について学ぶ。

【授業の内容】
次の候補企業から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、企業理念、企業コンプライアンス、社会・地域貢献、地域経済、人材育成、国際化、環境、循環社会、経営、広報などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。講義回数は１５回とする。なお、英語による講演を基本とするが、日本語で実施される場合は英語通訳等の措置を行う。

○熊本県内企業および団体
社会文化関連企業：熊本日日新聞、アジア法務サポートセンター
製薬・食品等関連企業：（財）化学及血清療法研究所
○県外企業および団体
社会文化関連企業：EQ partners、A-commerce
製薬・食品等関連企業：第一三共、アッヴィ合同会社、日本カーギル、新日本科学

なお、講演を担当いただく企業・団体が追加・変更された場合には、HIGO プログラムホームページに掲載しますので、随時、参照するようにして下さい。

【キーワード】企業理念、企業コンプライアンス、健康、医療、創薬、育薬、社会貢献、地域貢献、国際化、地域経済、環境、広報

【授業の形態】質疑応答を重視したセミナー形式で、Power point, OHP 等を活用する。セミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。

【テキスト】特に指定はせず、セミナーのポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】特に指定しない。

【オフィスアワー】
セミナーの内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに e-メールで問い合わせること。
また、オフィスアワーに研究室を訪問していただければ対応します。

【評価方法】
１５回のセミナーに出席し、３回のレポート提出を義務づける。セミナー中の質疑応答や、セミナー終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を評価する。

【事前学習】
セミナーを担当する企業の情報について、企業のホームページ等を利用して事前に予習しておくこと

【事後学習】
セミナーで学んだ内容を記したノートや配布資料をよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。e ラーニングが可能なものについては、そのコンテンツを復習すること。

【授業の日時】
１～２年次にセミナーを聴講する。曜日・時間は特に指定しない。スケジュールは決まり次第、HIGO プログラムホームページに掲載するため、随時、日程のチェックを行って下さい。
授業には、特別な理由が無い限り出席すること。

HIGO プログラム４年コース
授業科目： HIGO 企業セミナー（必修１単位）　　**時間割コード：(医)24420（薬）09315**

科目主任教員： 有馬　英俊（製剤設計学分野　　TEL: 371-4160）arimah@gpo.kumamoto-u.ac.jp
副主任教員： 尾池　雄一（分子遺伝学分野　　TEL: 373-5140）oike@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分 担 教 員： HIGO プログラム担当教員

【授業の目標】健康生命科学分野において、本質を俯瞰できる専門的知識と国際的視野をもって、地域や日本・国際社会（グローカル社会）が抱える人類的課題を解決できる、世界と日本・地域を結ぶ産学官を牽引できるリーダーの育成が望まれている。HIGO 企業セミナーでは、企業からの視点を獲得し、地域社会のニーズを強く意識して社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を涵養することを目的に、講師を熊本県・熊本市の企業に加えて、国内の大手企業の経営者・研究者・開発者等を非常勤講師として招聘し、健康生命科学の社会への還元のあり方等について学ぶ。

【授業の内容】次の候補企業から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、企業理念、企業コンプライアンス、社会・地域貢献、地域経済、人材育成、国際化、環境、循環社会、経営、広報などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。講義回数は８回とする。なお、英語による講演を基本とするが、日本語で実施される場合は英語通訳等の措置を行う。

〇熊本県内企業および団体
　社会文化関連企業：熊本日日新聞
　製薬・食品等関連企業：（財）化学及血清療法研究所、アジア法務サポートセンター
〇県外企業および団体
　社会文化関連企業：EQ partners、A-commerce
　製薬・食品等関連企業：第一三共、アッヴィ合同会社、日本カーギル、新日本科学

なお、講演を担当いただく企業・団体が追加・変更された場合には、 HIGO プログラムホームページに掲載しますので、随時、参照するようにして下さい。

【キーワード】企業理念、企業コンプライアンス、健康、医療、創薬、育薬、社会貢献、地域貢献、国際化、地域経済、環境、広報

【授業の形態】質疑応答を重視したセミナー形式で、Power point, OHP 等を活用する。セミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。

【テキスト】特に指定はせず、セミナーのポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】特に指定しない。

【評価方法】８回のセミナーに出席し、２回のレポート提出を義務づける。セミナー中の質疑応答や、セミナー終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を評価する。

【オフィスアワー】
　セミナーの内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに e-メールで問い合わせること。また、オフィスアワーに研究室を訪問していただければ対応します。

【事前学習】
　セミナーを担当する企業の情報について、企業のホームページ等を利用して事前に予習しておくこと

【事後学習】
　セミナーで学んだ内容を記したノートや配布資料をよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。e ラーニングが可能なものについては、そのコンテンツを復習すること。

【授業の日時】
　１～４年次にセミナーを聴講する。曜日・時間は特に指定しない。スケジュールは決まり次第、HIGO プログラムホームページに掲載する。随時、日程のチェックを行って下さい。
授業には、特別な理由が無い限り出席すること。

HIGO プログラム 4 年コース
授業科目： HIGO 行政インターンシップ（選択 1 単位）　　**時間割コード：(医)24510 (薬) 09335**

科目主任教員： 入江　徹美（薬剤情報分析学分野　　TEL: 371-4552）tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp
副 主 任 教 員 ： 加藤　貴彦（公衆衛生・医療科学分野 TEL: 373- 5112）　katoht@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分　担　教　員： HIGO プログラム担当教員

【授業の目標】
健康生命科学分野において、本質を俯瞰できる専門的知識と国際的視野をもって、地域や日本・国際社会（グローカル社会）が抱える人類的課題を解決できる、世界と日本・地域を結ぶ産学官を牽引できるリーダーが必要とされている。その資質を涵養するためには、医学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、臨地経験に基づく福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等の知識の修得が必要である。HIGO 行政インターンシップでは、それらに関わる業務を臨地体験することにより、行政・企業セミナーで修得した知識を実際の現場で体験することで実践的能力を獲得すると共に、さらなる学習意欲の向上や職業観・使命感の育成を図る。

【授業の内容】
熊本県庁、熊本市役所、中央官庁等の協力の下に、医療政策、医薬行政、健康危機管理等の行政業務を体験する。

なお、英語による実習を基本とするが、日本語で実施される場合は、英語通訳等の措置を行う。

【キーワード】
医療、福祉、環境、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理

【授業の形態】
熊本県庁、熊本市役所、中央官庁などの行政機関において、研修生として、5 日間（30 時間）業務に携わり就業体験を行う。その際、学習のプロセス（事前学習や事後学習も含む）およびその学習成果を e-portfolio として記録する。さらに、臨地体験終了後、発表・討論を行い、学習内容の理解を深める。

【テキスト】
特に指定はせず、インターンシップの概要に関するプリントを配布する。

【参考書】
特に指定しない。

【評価方法】
臨地体験、発表・討論の積極的な態度および e-portfolio の記載内容にに基づき、当該インターンシップによる実践的能力の修得度を評価する。

【オフィスアワー】インターンシップ期間中およびインターンシップ終了後、疑問や相談などがある場合には、上記の教員あてに電話または e-メールで問い合わせを行って下さい。

【事前学習】インターンシップを担当する行政機関等の情報について、そのホームページ等を利用して事前に予習しておくこと

【事後学習】インターンシップで学んだ内容を記したノートや配布資料をよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。e ラーニングが可能なものについては、そのコンテンツを復習すること。

【授業の日時】 １～４年次に実施する。曜日・時間は特に指定しない。スケジュールは決まり次第、HIGO プログラムホームページに掲載する。随時、日程のチェックを行って下さい。

HIGO プログラム４年コース
授業科目： HIGO 企業インターンシップ（選択１単位）　　**時間割コード：(医)24520（薬）09340**

科目主任教員： 有馬　英俊（製剤設計学分野　　TEL: 371-4160）arimah@gpo.kumamoto-u.ac.jp
副主任教員： 尾池　雄一（分子遺伝学分野　　TEL: 373-5140）oike@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分 担 教 員： HIGO プログラム担当教員

【授業の目標】
HIGO プログラムは、地域・アジアのニーズを理解し、地域や世界と協働して、地域課題解決に挑戦できるグローカルな健康生命科学パイオニアの育成を目的としている。HIGO 企業インターンシップでは、行政・企業セミナーで習得した知識を、地域企業ならびに国内大手製薬企業の現場での体験を通して、企業理念・企業コンプライアンス・経営・企画・運営・経理・社会貢献・地域貢献・ニーズに関する生きた情報に触れることにより、グローカルな視点での実践的能力の向上を図るとともに、色々な環境の変化に適応する術について学ぶ。

【授業の内容】
企業インターンシップでは以下の候補企業の中から１つを選び、30 時間（5 日間）の企業での体験型実習を行う。また、英語による実習を基本とするが、日本語で実施される場合は、英語通訳等の措置を行う。

〇熊本県内企業および団体
熊本日日新聞、化学及血清療法研究所
〇国内製薬関連企業
新日本科学、エーザイ

なお、実習を担当いただく企業・団体が追加・変更された場合、複数の企業が連携して実施される場合などの変更があった場合には、HIGO プログラムホームページに掲載しますので、随時、参照するようにして下さい。

【キーワード】
体験型実習、企業、健康、医療、診療、治療、創薬、育薬、環境、社会貢献、国際化、地域経済、広報、企業コンプライアンス

【授業の形態】企業での体験型実習。臨地体験終了後、発表・討論を行い、学習内容の理解を深める。

【テキスト】特に指定はせず、インターンシップの概要に関するプリントを配布する。

【参考書】特に指定しない。

【評価方法】e-ポートフォリオあるいはレポート提出を義務づける。体験実習の現場での質疑応答や発表・討論の積極的な態度、体験実習終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を評価する。

【オフィスアワー】インターンシップ期間中およびインターンシップ終了後、疑問や相談などがある場合には、上記の教員あてに電話または e-メールで問い合わせを行って下さい。

【事前学習】インターンシップを担当する企業の情報について、企業のホームページ等を利用して事前に予習しておくこと

【事後学習】インターンシップで学んだ内容を記したノートや配布資料をよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。e ラーニングが可能なものについては、そのコンテンツを復習すること。

【授業の日時】１～４年次に実施する。曜日・時間は特に指定しない。スケジュールは決まり次第、HIGO プログラムホームページに掲載する。随時、日程のチェックを行って下さい。

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目： HIGO 公共政策演習 Ⅰ（選択 2 単位）　　**時間割コード（医）24580（薬）08345**

科目主任教員： 上野　眞也　政治学　政策創造研究教育センター教授
Tel: 342-2038）ueno@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分担教員　　： 彭 勃　　政治学　政創研客員教授、中国・上海交通大学国際関係公共事務学院教授
bpeng@sjtu.edu.cn
劉　　春栄　政治学　政創研客員准教授、中国・復旦大学・欧州中国研究センター所長、准教授）crliu@fudan.edu.cn

【授業の目標】
世界各国の政治や行政制度について学び、自ら「善き社会」を構想し、政治や行政に働きかけることができるようになることをめざす。

【授業の内容】
政治学や公共政策学は、民主的にその時代・場所にあった「善き社会」を構想し、それを実現する能力を得ることを目的としている。講義では、世界各国の多様な行政制度や社会理念、社会構造に関する知識を修得し、どのように政策形成や政府の運用のために権力を用い、多くの国民を幸せにできる社会を実現するのかについて学ぶ。
公共政策演習Ⅰでは、英国、米国、フランス、ドイツ、スイス、スウェーデン、タイ、シンガポール、中国、日本の政治・行政を詳細に取り上げる。

【キーワード】政治、権力、地方自治、ＮＰＭ、福祉国家体制、新制度論

【授業の形態】演習形式。参加学生が交代で各国の政治・行政について報告する。それをもとに比較政治学的観点でディスカッションを行う。

【テキスト】　特に指定しない。

【参考書】
- 土岐寛、加藤普章『比較行政制度論』第 2 版、法律文化社、2005 年。
- Central Intelligence Agency, *The World Fact Book*, (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/ch.html)

【オフィスアワー】　講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、教員あてに電話あるいは
Ｅメールでアポイントを問い合わせのうえ、研究室を訪問。

【評価の基準と方法】活発な意見交換による講義への貢献度と理解度を総合的に評価。

【事前学習】テーマとなる国について学生が交代で報告を行う。報告担当学生以外も、該当国に関する事前学習が議論には不可欠である。

【事後学習】疑問点、論点を更に探求するとともに、紹介される参考文献を読み込む。

【講義の日時と内容】

講義番号	日時・時限	講師	講義内容
1～11 回.	後期・木曜２限 (10/1～)	上野眞也	比較政治・行政（英、米、仏、独、スイス、スウェーデン、タイ、シンガポール、日本）
12～13 回.	来日時期調整	彭 勃	中国の地方自治体と市民社会
13～14 回		劉春栄	中国都市部におけるコミュニティ・ガバナンスとエリートの活動

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目: HIGO 公共政策演習 Ⅱ（選択 2 単位）　　**時間割コード(医)24590(薬)08350**

科目主任教員: 上野　眞也　（公共政策学　TEL: 342-2038）ueno@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分担教員　: 渡部　薫　（地域政策論　TEL. 342-2843）kaoru@kumamoto-u.ac.jp
石原明子　（紛争解決・平和構築学　TEL: 342-2822）aishi@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】

政府などの公的組織においてあるいは一市民として重要な意思決定を行い、善きガバナンスを行うための理論や実践例を学び、現実の地域社会を構築していくための政策形成や制度運用ができるようになることを目指す。

人間社会に関する知識や技術と深い医学薬学の専門性を修得した者が、将来、中央・地方政府、国際機関、非営利組織、ビジネス界などで専門性を活かして、人類にとって善き世界を創っていくことに挑戦する関心と気概を持つようになることを期待している。

【授業の内容】

二名の教員が担当する。渡部よる「公共政策演習Ⅱ:公共政策分析」では、地域の活性化を主にした地域政策のあり方をテーマとし、とりわけ地域づくりやそのガバナンスに焦点を当てる。受講生は、地域づくりの基本的な概念、理論や様々な地域づくり・政策の実践とそれに伴う問題について学ぶ。具体的な授業内容としては、地域の変容と地域政策の推移、ローカル・ガバナンスの基本的考え方、地域づくりの取組み方とガバナンス、社会的企業と地域づくり、創造都市の考え方と政策、文化によるまちづくり、を予定している。

石原による「公共政策演習Ⅱ:地域被害と地域再生戦略」では、水俣、福島(震災と原発災害)、アフリカ(内戦)などの事例についてその歴史と現状を検討することで、環境正義や内戦等の社会問題を経験した地域再生と正義構築に関する課題と方策について学び考えてゆく。

【キーワード】

self-sustainability of a region, community development and governance, social enterprise, cultural economy, cultural policy, creative city, 水俣、福島、ルワンダ、環境正義、内戦、平和構築、地域の分断と再生

【授業の形態】質疑応答を重視した講義形式で、Power point 等を活用した対面式授業。ゲスト講師等のかたちで各事例の当事者の話を聞く機会も活用する。

【テキスト】 特に指定はせず、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】

- Naohiko Jinno, 2002, *Economics for Regional Regeneration*, Chukoshinsho (Chuokoronshinsha)
- Toru Morotomi, 2010, *New Strategy for Regional Regeneration*, Chuokoronshinsha
- Charles Landry, 2000, *The Creative City: A Toolkit for Urban Innovators*, Earthscan Publications
- 色川大吉編『新編 水俣の啓示―不知火海総合調査報告』筑摩書房 1995
- 竹内進一『現代アフリカの紛争と国家』明石書店 2009

【オフィスアワー】 講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいは Eメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ随時対応いたします。

【評価の基準と方法】講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を評価する。

【事前学習】シラバスならびに紹介する参考文献等を、事前に予習しておくこと。

【事後学習】講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

【講義の日時と内容】

講義番号	日時・時限	講師	講義内
1.	5 月 14 日(木)3 限	渡部薫	日本の地方都市の状況と地域政策の変化
2.	5 月 14 日(木)4 限	渡部薫	地域政策をどう理解し評価するか
3.	5 月 28 日(木)3限	渡部薫	ローカル・ガバナンス
4.	5 月 28 日(木)4 限	外部講師	社会的企業の役割と可能性
5.	6 月 11 日(木)3限	渡部薫	社会的企業と地域づくり
6.	6 月 11 日(木)4限	渡部薫	創造経済と創造都市政策
7.	6 月 11 日(木)5限	石原明子	地域被害と地域再生戦略―災害・内戦
8.	6 月 20 日(土)TBA	石原明子 Carl Stauffer Carolyn Stauffer	内戦と平和構築(1)内戦の要因分析
9.	6 月 20 日(土)TBA	石原明子 Carl Stauffer Carolyn Stauffer	内戦と平和構築(2):平和と正義構築 14.
10.	6 月 25 日(木)3限	外部講師	アート・プログラムと地域づくり
11.	7月2日(木)3 限	石原明子	環境正義事例(1):水俣病事件の歴史
12.	7月2日(木)4限	石原明子	環境正義事例(2):水俣の地域再生と現在

13.	7月 16 日(木)3限	石原明子、他	東電福島第一原発災害と地域被害
14.	7月 16 日(木)4限	石原明子、他	福島など被災地が抱える課題と再生への取組み:地域分断と葛藤
15.	7月 16 日(木)5限	石原明子、他	福島など被災地が抱える課題と再生への取組み:地域再生と対話

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目： HIGO 公共政策演習 Ⅲ（選択 2 単位）　　**時間割コード（医）24590（薬）08350**

科目主任教員：　上野　眞也　（政治学）　政策創造研究教育センター教授　Tel: 342-2038
ueno@gpo.kumamoto-u.ac.jp
分担教員　　：阿部　悠貴　（国際関係論）　法学部准教授　TEL: 342-2355　y-abe@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】
本演習では国際関係論の基礎概念を理解すること、及び実証的・経験的な政治学など社会科学を研究する際に必要となる分析方法について理解することを目的としている。こうした問題への議論を通じ、今日の国際政治における問題を分析するための理論的視座を獲得できることを最終的な到達点として設定している。

【授業の内容】
前半 5 回の国際関係論の講義では、とりわけ近年に起きた問題を取り上げながら、国際政治を理解する上で必要な知識を養っていくことを狙いとする。まず政治体制と発展の関係について考察し、民主主義は経済発展を促すのか、もしそうならその理由は何であるのかという点について議論を行う。次に今日問題となっている「人道的介入」と呼ばれるテーマを取り上げる。
後半 10 回の政治学的分析方法論では、身近におきるさまざまな社会現象や政治現象を題材に、その原因を推論し説明する分析作法について学びながら、社会科学研究を行うことに慣れることを目的とする。講義の中で、実際に自分で社会文化科学研究を行うという観点から、様々な実証的な研究論文を読み込む。

【キーワード】国際関係論、民主主義、人道的介入、政治学、説明、因果関係、推論

【授業の形態】 1～5 回　指定文献を事前に講読し、それについての発表を行う形式。
6～15 回　下記講義内容に沿い、身近な事例について実証的・経験的な社会科学的研究のアプローチを使って議論する。受講者は、講義の中で自分が行いたいと考える社会文化科学の研究論文の研究計画を作成する。

【テキスト】　1～5 回　指定文献をアップロードする（もしくは受講生にメールで配布）
6～15 回　講義で必要文献を指示する

【参考書】
- Daron Acemoglu and James A. Robinson, *Why Nations Fail: the Origins of Power, Prosperity, and Poverty*, New York: Crown Business, 2012.
- Taylor B. Seybolt, *Humanitarian Military Intervention: the Conditions for Success and Failure*, Oxford: Oxford University Press, 2007.
- *Gary King, Robert O. Keohane and Sidney Verba, Designing Social Inquiry*, Princeton: Princeton University Press 1994.
- 久米郁夫『原因を推論する』有斐閣、2013。
- Charles C. Ragin, *Constructing Social Research*, Pine Forge Press, California, 1994.
- Lisa A. Briglione, *Writing a Research paper in Political Science: A Practical Guide to Inquiry, Structure, and Methods*, Tomson, Belmont, CA, 2006.

【オフィスアワー】　阿部：毎週月曜 14 時 30 分から 16 時。それ以外の時間は適宜対応
上野：予めアポがあれば時間は適宜対応

【評価の基準と方法】演習への参加、報告、レポートから総合的に評価

【事前学習】指定文献を講読

【事後学習】関連した文献を自身で講読

【講義の日時と内容】

講義番号	日時・時限	講師	講義内容
1	5 月 14 日（木）	阿部　悠貴	民主主義と発展（1）
2	5 月 21 日（木）	阿部　悠貴	民主主義と発展（2）
3	5 月 28 日（木）	阿部　悠貴	人道的介入の諸問題（1）
4	6 月 4 日（木）	阿部　悠貴	人道的介入の諸問題（1）
5	6 月 11 日（木）	阿部　悠貴	受講生による発表
6.	6 月 18 日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(1)-説明の枠組み

7.	6月25日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(2)-科学の条件としての反証可能性
8.	7月2日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(3)-観察、説明、理論
9.	7月9日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(4)-推論としての記述
10.	7月16日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(5)-共変関係を探る
11.	7月23日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(6)-因果関係の向き
12.	7月30日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(7)-他の変数の統制
13.	8月6日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(8)-分析の単位、選択バイアス
14.	8月20日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(9)-比較事例研究
15.	8月27日（木）	上野　眞也	政治的分析方法論(10)-政治学と方法論

Advanced Course: Career Vision Development

技術と組織のマネジメント 演習Ⅰ

応用医療経済学と意志決定論 （選択：6 単位）　　Subject Code

講義担当者: 安川文朗（医療経済学 TEL: 045-787-2105）fyasu@yokohama-cu.ac.jp)
担当講師: 安川文朗(ＨＩＧＯ客員教授/横浜市立大学教授)
両角良子(富山大学准教授)
JiWei Qian(Researcher, East Asian Institute, NUS, Singapore)

【講義の目的】

本講義では、医療技術を単に工学的テクノロジーとしてとらえるのではなく、医療システムのメカニズム、組織運営、そして医療で働く人々の行動にまで拡張した広範な「医療マネジメント」の技法として考え、その基本的な理論と応用手法を学ぶことにある。.

【講義概要】

本講義では上記の目的を達成するために、以下の４つのトピックを取り上げる

1) 医療経済の基本理論・理念：選好、効用、効率性、需要と供給
2) 個人や組織の意志決定と行動を誘引するインセンティブ（価格)その他の経済的メカニズム
3) 医療における価値の測定：理論と技法
4) 高齢者医療やアジアの医療

1) では、まず医療経済学議論における基本的理論やアイデアを学び、それらが個人や組織の行動にどう影響しているかを考える。続いて 2) では、価格に代表される経済学的インセンティブのメカニズムとその機能について、保険のしくみや医療制度設計の実際を参考に理解する。また 3) では、医療の質や成果をどう評価するかという問題について、費用対効果や費用対便益などの理論とその実際的方法を理解する。そして 4) では、これらの医療経済的知見を応用して、現在の高齢社会における諸課題、またアジアの医療制度改革の実際を学び、医療システムをどうマネジメントしていくべきかを議論する。.

【Keywords】

医療経済学、選好、インセンティブメカニズム、効率性、意志決定、高齢社会、費用効果、費用便益

【講義形式】

ラウンドテーブルによる双方向型の演習形式で講義を行う。都合で出席できない学生の便宜をはかるためテレビ会議システムの活用も考慮する。また本講義の受講者には、正規の課題レポートとは別に、各自本講義で学んだことに関して自分が興味を持ったトピックについて、小論文（エッセイ）を執筆してもらう予定である（すぐれたエッセイは学外ジャーナルへの投稿を計画)。.

【教科書】

教科書は特に指定しないが、下記参考書を適宜引用するほか、毎回講師が資料を配布する。

【参考図書】

以下の文献を参考図書として準備しておくことが望ましい

.Bhattacharya, T.Hyde and P.Tu, *Health Economics*, Pargrave MacMillan Ebook（Ｅブックで入手可)

【Office Hours】

基本的に講義時間後に質問、相談時間を設ける。またそれ以外の時間で相談を希望する場合は、事前にメールでアポイントをとること。

【採点方法】

採点評価は、講義への参加と議論へのコミットメント、課題の提出等を総合的に勘案しておこなう。

【事前学習】あらかじめ参考文献の該当箇所に目を通しておくこと

【事後学習】 疑問的の確認と自分なりの問題提起をする癖をつけること

【講義予定】　　＊ 現時点で予定の日程（変更の可能性あり）

Session	日時	講師	講義内容
1.	4 月 24 日 2 限	安川文朗	オリエンテーションと医療経済学の基礎概念
2.	5 月 8 日 1 限	安川文朗	医療経済学の基礎理論(1)選好、効用
3.	5 月 8 日 2 限	安川文朗	医療経済学の基礎理論(2)効率性
4.	5 月 22 日 1 限	安川文朗	医療経済学の基礎理論(3)需要と供給
5	5 月 22 日 2 限	安川文朗	医療経済学の基礎理論(4)意志決定
6.	6 月 5 日 1 限	安川文朗	保険の理論(1)
7.	6 月 5 日 2 限	安川文朗	保険の理論(2)
8.	6 月 19 日 1 限	安川文朗	インセンティブと意志決定(1)
9.	6 月 19 日 2 限	安川文朗	インセンティブと意志決定(2)
10.	7 月 3 日 1 限	安川文朗	医療の経済評価(1)
11.	7 月 3 日 2 限	安川文朗	医療の経済評価(2)
12.	7 月 17 日 1 限	両角良子	高齢社会と高齢者の医療の経済分析(1)
13.	7 月 17 日 2 限	両角良子	高齢社会と高齢者の医療の経済分析(2)
14.	7 月 31 日 1 限	JiWei Qian	Health economics and policy in China(1)
15.	7 月 31 日 2 限	JiWei Qian	Health economics and policy in China(2)

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目: HIGO 技術マネジメント演習 Ⅱ（選択 2 単位）　　**時間割コード（医）24620（薬）08365**

科目主任教員: 石原　明子　（紛争解決学　TEL: 096－342－2822）　aishi@kumamoto-u.ac.jp
分担教員　:
河村　洋子（政創研：ヘルスプロモーション・ヘルスコミュニケーション　TEL: 342-2041 ）kawamura@kumamoto-u.ac.jp
都竹　茂樹（政創研：ヘルスプロモーション・インストラクショナルデザイン　TEL 342-2044）tsuzuku@kumamoto-u.ac.jp
鈴木　桂子（非常勤講師、Foot steps 代表　組織開発・紛争解決・人材マネジメント）
石原明子　（大学院社文研　紛争解決・平和構築学　TEL: 342-2822）aishi@kumamoto-uac.jp

【授業の目標】

本科目では、社会や組織の変化に有用な様々なスキルや技術について学ぶことを目的として内容を構成します。受講生はイノベーションを創出できるリーダーとして社会や組織の中での変化を媒介する役割を担うことができるようになるよう、経験的かつ主体的に学ぶもとが求められます。

具体的な学習目標には以下を掲げます。

1） 受講生は非常に複雑な現相社会で変化を生み出すためのコミュニケーションの役割を知り、ディスカッションすることができる
2） 組織や社会の変化を生み出すためにどのような方法があり、それらをどのように活用すれば良いかを知り、ディスカッションすることができる
3） 受講生は組織や社会の変化を生み出すためのコミュニケーション手法を実際に活用することができる
4） 受講生はビジネスマネジメントの視点から紛争変容、組織変革、人的資源開発に関する理論とフレームワークについてディスカッションすることができる
5） 受講生は紛争変容、組織変革、人的資源開発に関する基礎的な知識と方法を実践的に応用することができる

【授業の内容】上記の目的を達成するために以下のトピックを予定しています。1）組織と社会変化のためのコミュニケーション理論とフレームワーク
2）組織と社会変化のためのコキュニケーション手法
3）組織と社会変化のためのコミュニケーション手法を応用するためのスキル
4）紛争変容、組織変革、人的資源開発の理論とフレームワーク
5）特にビジネスマネジメントの視点から紛争変容、組織変革、人的資源開発に関する方法論とそれを応用するスキル

【キーワード】
社会技術、コミュニケーション、組織開発、人的資源開発、紛争変容

【授業の形態】参加の要素の多いセミナー形式

【テキスト】 特に指定はせず、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】

- 授業のなかで折々に知らせます

【オフィスアワー】 講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいは
Eメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ随時対応いたします。

【評価の基準と方法】講義への積極的な参加、課題、最終レポートに基づいて評価します。

【事前学習】シラバスならびに紹介する参考文献等を、事前に予習しておくこと。

【事後学習】レポートの提出や取り組んだ課題に報告内容をしっかりと準備すること。

【講義の日時と内容】

講義番号	日時・時限	講師	講義内容
10/9	4 時限	河村	組織的・社会的変化のためのコミュニケーション理論とフレームワーク(1)
10/9	5 時限	河村	組織的・社会的変化のためのコミュニケーション理論とフレームワーク(2)
10/23	4 時限	河村	組織的・社会的変化のためのコミュニケーション手法(１)
10/23	5 時限	河村	組織的・社会的変化のためのコミュニケーション手法(２)
11/6	4 時限	河村／都竹	組織的・社会的変化を応用するためのスキル（１）

11/6	5 時限	河村／都竹	組織的・社会的変化を応用するためのスキル（２）
11/20	4 時限	河村／都竹	組織的・社会的変化を応用するためのスキル（３）
11/20	5 時限	河村／都竹	組織的・社会的変化を応用するためのスキル（４）
		石原／鈴木	紛争変容の理論とスキル
		鈴木／石原	紛争変容、組織開発、人的資源開の理論とフレームワーク（１）
		鈴木／石原	紛争変容、組織開発、人的資源開の理論とフレームワーク（２）
		鈴木	紛争変容、組織開発、人的資源開のためのスキル（１）
		鈴木	紛争変容、組織開発、人的資源開のためのスキル（２）
		鈴木	紛争変容、組織開発、人的資源開ケーススタディ（１）
		鈴木	紛争変容、組織開発、人的資源開ケーススタディ（２）

9 回目以降は、日時都場所については、非常勤講師の都合によるため未定

Advanced Course: Career Vision Development

技術と組織のマネジメント演習 Ⅲ

イノベーションマネジメントの実際　　(選択: 6 単位)　　Subject Code

講義担当者: 安川文朗 (応用経済学 TEL: 045-787-2105) fyasu@yokohama-cu.ac.jp)
担当講師: 安川文朗(ＨＩＧＯ客員教授/横浜市立大学教授)
片桐大輔(千葉大学産学連携知的財産管理部門准教授)
Gregg Mayer (President, Gregg Mayer and Co. El Cerrito, CA, USA)
Elizabeth Kuuttila(CEO & Chief Economic Development Officer, STC, The University of New Mexico, NM, USA)

【講義の目的】

本講義は技術マネジメント特に技術創出から資金調達、特許取得、そしてマーケットへの提供に至る一連のプロセスについて学びながら、医療関連技術がどのように生みだされ社会に活かされていくかを実践的に理解することを目的とする。

本講義では、受講者が実際に自分で発明した技術や発見した知識をどのように発展させていくかについての具体的な方法を理解することができ、技術移転や起業を実践できるよう、技術創出プロセスに実際に参加する体験的プログラムを用意しており、受講者は技術マネジメントに必要なあらゆる要素を体験的に理解することができる。

【講義概要】

本講義では上記の目的を達成するため、以下の３つの内容を段階的に講義する。

1) 技術マネジメントとは何か、技術マネジメントが必要とされる理由と背景について理解する。

2) 技術創出から資金調達、マーケティング、特許取得、ＩＰ(市場化)までの各プロセスを理解し、効果的な技術創出とマネジメントの在り方を理解する。

3) 実際の技術マネジメントプロセスに参加し、そこで必要とされるコミュニケーション、マーケティング、ライセンシングなどの技法を学ぶ。

1)では、なぜ技術マネジメントが必要なのかについて受講生が明確な認識をもつことが重要なゴールであり、それを基礎として 2)では、技術革新をもたらすプロセスとそれを支援するさまざまなマネジメントシステムについて、基本的なフレームワークを学ぶ。その際、日本の事例と合わせて、アメリカの技術創出や技術移転の実態について、特に医療分野に注目して理解する。そして 3)では、バイオ技術の市場化ですぐれた実績をもつアメリカニューメキシコ大学 The University of New Mexico のサイエンス・テクノロジー・センターＳＴＣを訪問し、そこでの医療系技術マネジメントの実際をＯＪＴで学ぶ予定である。

【Keywords】

技術マネジメント, イノベーション, 資金調達, MOT, 産学連携, 起業

【講義形式】

ラウンドテーブルによる双方向型の演習形式で講義を行う。都合で出席できない学生の便宜をはかるためテレビ会議システムの活用も考慮する。また後半はＯＪＴによる体験型講義となる。

【教科書】

特に指定しない。講師が適宜資料を配布する。

【参考図書】

特に指定しない。講師が適宜紹介する。

【Office Hours】

基本的に講義時間後に質問、相談時間を設ける。またそれ以外の時間で相談を希望する場合は、事前にメールでアポイントをとること。

【採点方法】

採点評価は、講義への参加と議論へのコミットメント、課題の提出等を総合的に勘案しておこなう。

【事前学習】 日ごろから技術革新の問題について問題意識をもっておくこと。

【事後学習】 疑問的の確認と自分なりの問題提起をする癖をつけること

【講義予定】　　* 現時点で予定の日程（変更の可能性あり）

Session	日時	講師	内容
1.	10 月 2 日 3 限	安川文朗	オリエンテーションと講義の概要説明
2.	10 月 16 日 3 限	安川文朗	**技術マネジメントとは何か(1)：社会的背景**
3.	10 月 16 日 4 限	安川文朗	**技術マネジメントとは何か(2)：基本的枠組み**
4.	10 月 30 日*3 限	**片桐大輔**	**技術マネジメントの実際(1)；国内外の動向**
5	10 月 30 日*4 限	**片桐大輔**	**技術マネジメントの実際(2)：実践ケース**
6.	Nov*	Gregg Meyer	Medical technology and health care policies(1)
7.	Nov*	Gregg Meyer	Medical technology and health care policies(2)
8~14.	Nov*	Technology transfer and communication (theory and practice)(1)~(7) Elizabeth Kuuttila STC, University of Mexico	
15.	Dec*	**安川文朗**	**総括とディスカッション**

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目：HIGO 異文化コミュニケーション演習Ⅰ
「異文化共生論」（選択 2 単位　高橋研究室/社文研演習室で開講）時間割コード

科目主任教員：石原明子（社会文化科学研究科 TEL 342-2842）　aishi@kumamoto-u.ac.jp

分担教員　：高橋隆雄（熊本大学客員教授　TEL：342-2373）　ttaka@kumamoto-u.ac.jp
葉陵陵（社会文化科学研究科）　ling@gpo.kumamoto-u.ac.jp
田中朋弘（文学部）　ttanaka@kumamoto-u.ac.jp
中川輝彦（社会文化科学研究科）　teru2@kumamoto-u.ac.jp
シンジルト（文学部）　shinjilt@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】
環境倫理、災害倫理、比較法論、ビジネス倫理、医療における紛争の解決、医療社会学、人類学、平和学を学ぶことを通じて、人間と自然の共生、社会や組織における人間の共生、文化間の共生、国家間の共生について理解を深める。

【授業の内容】
人間と自然の共生論としての環境倫理、災害倫理、また、アジアの比較法論、組織内での共生を扱うビジネス倫理、医療の場での共生をめざす医療紛争解決論、医療社会学的視点からの共生論、アジアをフィールドとして人間と動物の関係を再考する人類学的考察、そして国家間の共生を論じる平和学を学ぶ。平和学の授業に際しては、８月に北東アジア平和構築インスティチュート（ＮＡＲＰＩ）主催の研修に参加する。なお、この授業はすべて英語で行われる。

【キーワード】
環境倫理　災害　ビジネス倫理、紛争解決　人類学　　比較法理論、平和学

【授業の形態】Power point を使用。授業での積極性が望まれる。海外研修を含む。

【テキスト】　特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】　*Ethics of the Environment,* R.Attfield(ed.), Ashgate, 2008.
Bioethics Mediation: A Guide to Shaping Shared Solutions, Revised and Expanded Edition, N.V.Dubler,C.B.Liebman, United Hospital Fund

【オフィスアワー】
講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはＥメールで問い合わせる。

【評価の基準と方法】
授業での発言や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポートにより評価する。

【事前学習】関連する文献資料を広く読んでおくこと。

【事後学習】講義中の配付資料やノートをよく復習すること。

【講義の日時と内容】

講義番号	日時・曜日・時限	講師	講義内容
1	5/1　(金 4)	高橋隆雄	イントロダクション＆環境倫理（人間と自然の共生）
2	5/(6,7) 8 (金)	石原明子、Dr.Arny&Amy Mindell、高橋隆雄、Darryl Macer 他	国連大学でのセミナー参加(環境・紛争解決)
3-4	5/15,22　(金 4)	高橋隆雄	環境倫理＆災害倫理
5-6	5/29,6/5　(金 4)	葉陵陵	アジアの比較法論
7	6/12　(金 4)	田中明弘	ビジネス倫理
8-9	6/20,26　(予定)	Dr.Carl Stauffer　Dr.Carolyn Stauffewr 石原明子、他	国際紛争・紛争解決・暴力
10	7/3　(金)	Dr.Geland Monk(他１名)、石原、明子、医療紛争解決	
11	7/10　(金 4)	中川輝彦	医療における「視点の衝突」
12	7/17　(金 4)	シンジルト	アジアをフィールドとする文化人類学
13-15	８月	石原明子	平和学（夏季研修/モンゴルNARPIトレーニング）

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目： HIGO 異文化コミュニケーション演習 II
「生命倫理論」 （選択 2 単位　高橋研究室で開講） 時間割コード

科目主任教員： 高橋隆雄 （熊本大学客員教授 TEL: 342-2373） ttaka@kumamoto-u.ac.jp
分担教員 ： N.Ghotbi(立命館アジア太平洋大学) nader@apu.ac.jp
O.K.Lai （ 関西学院大学総合政策学部） oklai@kwansei.ac.jp
児玉正幸（鹿屋体育大学） kodama@nifs-k.ac.jp
K.J.Yoo(Chung-Ang Univ. Korea) ykjlll@cau.ac.jp
J.Azariah(Founder President, All India Bioethics Association, India)
hildaazariah@yahoo.com
Darryl Macer （ American University of Sovereign Nations） dmacer@au-sn.com
ASM A. Bhuiyan (Jahangirnagar Univ. Bangladesh) bhuiyan_phil@yahoo.com
立花幸司 （文学部） koji-t@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】
生命倫理の基礎的概念と歴史を学び、日本をはじめとしたアジアの生命倫理と医療システムの様々な形態を把握することにより、異文化コミュニケーション問題の重要な観点を理解する。また国際セミナーにおけるプレゼンテーションの仕方を習得する。

【授業の内容】
日本、韓国、インド、中国、イラン、バングラデシュ、タイにおける生命倫理と医療システムの歴史と現状、ユネスコが提唱する普遍的生命倫理、および公衆衛生の倫理、脳神経倫理学を学ぶ。また、生命倫理国際セミナー(Bioethics Roundtable)に参加し、グループ発表する力を身に着ける。なお、この授業はすべて英語で行われる。

【キーワード】
生命倫理　生命倫理の原理　医療システム　文化的多様性　　アジアの生命倫理

【授業の形態】Power point を使用。授業での積極性が望まれる。座学だけでなく、ディスカッションを大幅に取り入れる。生命倫理国際セミナーへの参加、グループ発表を含む。

【テキスト】 特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】 *Principles of Biomedical Ethics* by T.L.Beauchamp, J.F. Childress, Oxford UP, 4th ed. 1994.
Taking Life and Death Seriously: Bioethics from Japan, T.Takahashi (ed.), Elsevier, 2005

【オフィスアワー】
講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはＥメールで問い合わせる。

【評価の基準と方法】
授業での発言や、国際セミナーでのプレゼンテーション、講義終了後に提示されるテーマに関するレポートにより評価する。

【事前学習】関連する文献資料を広く読んでおくこと。

【事後学習】講義中の配付資料やノートをよく復習すること。

【講義の日時と内容】 （12 月上旬の授業は、履修生の事情を考慮して、適宜、授業時間の変更を行う。）

講義番号	日時・曜日・時限	講師	講義内容
1-3	10/9,16,23（金 2）	高橋隆雄	生命倫理の概要（歴史と原理） プレゼンテーション準備
4	11/6 （金 2）	高橋隆雄	プレゼンテーション練習とチェック
5	11/13 （金 2）	N.Ghotbi	イランの生命倫理と法
6	11/20 （金 2）	O.K.Lai	中国の生命倫理と法
7	11/27 （金 2）	高橋隆雄	プレゼンテーションのチェック
8	12/2 （水 2）	児玉正幸	タイの生命倫理と法
9	12/3 （木 2）	K.J.Yoo	韓国の生命倫理と法
10	12/4 （金 2）	J.Azariah	インドの生命倫理と法
11	12/5 （土 2）	D.Macer	ユネスコの生命倫理原理
	12/5-6（土～日）		Bioethics Roundtable 9th への参加とプレゼンテーション
12	12/7 （月 2）	D.Macer	公衆衛生の倫理
13	12/8 （火 2）	ASM.A.Bhuiyan	バングラデシュの生命倫理と法
14	12/11 （金 2）	立花幸司	脳神経倫理学
15	12/18 （金 2）	高橋隆雄	臨床現場の生命倫理&まとめ

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目 : HIGO 異文化コミュニケーション演習 III
「アジアの文化・宗教特論」（選択 2 単位　高橋研究室で開講）**時間割コード**

科目主任教員 : 高橋隆雄（熊本大学客員教授　倫理学 TEL: 342-2373）　ttaka@kumamoto-u.ac.jp
分担教員　　: N.Ghotbi（立命館アジア太平洋大学）　nader@apu.ac.jp
O.K.Lai（関西学院大学総合政策学部）　oklai@kwansei.ac.jp
K.J.Yoo（Chung-Ang Univ. Korea）　ykjlll@cau.ac.jp
S.Panneerselvam（University of Madras, India）　sipasel@rediffmail.com
C.Umavijani（Thammasat Univ. Thailand）　chutauma2@yahoo.com
ASM A.Bhuiyan（Jahangirnager University, Bangladesh）　bhuiyan_phil@yahoo.com
竹内 裕 （文学部）　takeuchi@kumamoto-u.ac.jp
渡邊朝美（南栄科技大学）　chaomei0706@gmail.com
Tobias Bauer （文学部）　bauer@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】
この授業では、文化と宗教の多様性を主として日本とアジア諸国について学ぶ。

【授業の内容】
日本の文化を理解する上で不可欠な宗教（神道、仏教、儒教）について学ぶ。続いて、イラン、中国、韓国、インド、タイ、バングラデシュ、台湾の文化と宗教について学ぶとともに、アジア諸国の文化と宗教をさらに深く理解するために、ユダヤ教、キリスト教における文化と宗教について学ぶ。なお、この授業はすべて英語で行われる。

【キーワード】
宗教的多様性　文化的多様性　　アジアの文化と宗教

【授業の形態】 Power point を使用。授業での積極性が望まれる。座学だけでなく、ディスカッションを大幅に取り入れる。

【テキスト】 特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】 文化、宗教に関する著作一般。

【オフィスアワー】
講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはＥメールで問い合わせる。

【評価の基準と方法】
授業での発言や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポートにより評価する。

【事前学習】 関連する文献資料を広く読んでおくこと。

【事後学習】 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。

【講義の日時と内容】
（12 月上旬の授業は、履修生の事情を考慮して、適宜、授業時間の変更を行う。）

講義番号	日時・曜日・時限	講師	講義内容
1-4	10/8,15,22, 11/5（木 4）	高橋隆雄	日本における文化と宗教（神道、仏教、儒教）
5	11/12（木 4）	N.Ghotbi	イランにおける文化と宗教
6	11/19（木 4）	O.K. Lai	中国における文化と宗教
7	11/26（木 4）	高橋隆雄	日本における現代の文化と宗教
8	12/3（木 4）	K.J.Yoo	韓国における文化と宗教
9	12/4（木 4）	S.Panneerselvam	インドにおける文化と宗教
10	12/7（月 4）	C.Umavijani	タイにおける文化と宗教
11	12/8（火 4）	A.Bhuiyan	バングラデシュにおける文化と宗教
12	12/17（木 4）	竹内 裕	ユダヤ教における文化と宗教
13	1/14（木 4）	渡邊朝美	台湾における文化と宗教
14	1/21（木 4）	T.Bauer	キリスト教における文化と宗教
15	1/28（木 4）	高橋隆雄	まとめ

HIGO プログラム専門コース、HIGO プログラム 4 年コース
授業科目：　社会文化科学課題演習（必修 2 単位）　　**時間割コード：（医）24665（薬）08388**

科目主任教員：高橋隆雄　（生命倫理学　　TEL: 342-2373）ttaka@kumamoto-u.ac.jp
分担教員：　上野眞也　（公共政策学　　TEL: 342-2044）ueno@gpo.kumamoto-u.ac.jp
　　安川文朗　（組織経済学　　TEL: 045-787-2105）fyasu@yokohama-cu.ac.jp

【授業の目標】
この授業では、これまでに学んだ社会文化科学の知識を踏まえて、社会文化科学に関わる理論的あるいは実践的課題について最終レポートを作成する。最終レポートの分量は２万字以上（英文では５０００語以上）で、３００語程度の英文アブストラクトをつける。

【授業の内容】T
最終レポートを作成するための指導。

【キーワード】
社会文化科学　最終レポート

【授業の形態】
授業は、個人あるいはグループでの指導であり、各自の課題に関するレポートを添削指導することが中心となる。

【テキスト】　特に指定はしない。

【参考書】　　授業中に適宜指示する。

【オフィスアワー】
講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはＥメールで問い合わせるか、研究室を訪問すれば対応します。

【評価の基準と方法】
最終レポートに相応しいレポートが作成できたか否かを基準とします。

【事前学習】広範囲の文献を読んでおくこと。

【事後学習】授業中の指導を十分理解し、次回のレポート提出に備えること。

【講義の日時と内容】

日時: 高橋（金曜２限）・上野（水曜４限）・安川（金曜４限）　[いずれも前期]

講義番号	講義内容
１.	最終レポートの課題の検討
２.	〃
３.	〃
４.	最終レポートの課題の決定
５.	最終レポート作成への助言: 趣旨・方法論
６.	〃 : データ・資料収集
７.	〃 : 全体の構成
８.	〃 : 各章の構成
９.	〃 : 首尾一貫性
１０.	〃 : 独創性
１１.	最終レポートの草稿作成
１２.	〃
１３.	〃
１４.	〃
１５.	最終レポートの完成